

自衛隊を支える土木技術

―会長による統合幕僚長訪問と陸上自衛隊施設科の活動―

「語り手」山崎 幸二氏 防衛省 自衛隊 統合幕僚長

「聞き手」林 康雄氏 第107代 土木学会会長

災害派遣や国際貢献等で活躍している自衛隊の制服トップにあたる統合幕僚長が防衛大学の土木工学科

卒業であり、施設科という職種であることを皆さまはご存じでしょうか？

今回は防衛省・自衛隊の統合幕僚長を林会長が訪問し、自衛隊の災害派遣における活動状況、ならびに自衛隊における土木技術の役割や施設科部隊の活動について話を伺いました。

また、陸上自衛隊施設学校を訪問して、施設科の国際貢献や災害派遣での役割を伺い、橋梁器材等を見学しました。ここでは、統合幕僚長との懇談内容を中心に紹介します。

統合幕僚長を訪問

林――本日はお忙しい中、お時間を

とっていただきありがとうございます。

山崎――こちらこそ、お忙しい中、お越しいただきありがとうございます。

林――災害派遣の際の人命救助、行方不明者捜索、復旧支援等、被災地および被災民に対する自衛隊の献身的な支援には、いつも頭の下がる思いです。

山崎――自衛隊は、日本全国に部隊を展開しており、地域に根差した活動を行っています。もちろん、わが国の防衛が主体ですが、災害があった場合には、地域の一員として、国の実行部隊として、国民の生命・財産を守る任務を有しています。そのためには地方自治体をはじめ、各関係機関と平素から連携を図ることが重要で、災害が発生したときの対応要領について計画を

立て、訓練を行っています。

林――昨年の台風19号においては、東北や長野等で、大きな被害が出ており、いわゆる河川、治水がこのままではいかいのかと、土木学会としても議論を重ねて提言を行いました。その中でも

国、県、市町村ならびに自衛隊の方々と共通の情報交換を密に行うことが重要で、災害が発生したときには、連携をとって対応できるようにしておくことが重要だと考えています。

山崎――まさしく大事な議論だと思います。今回まさに一都十一県で、災害救助活動を行いました。平素の段階で河川がどのような状態になって、どのくらいの水量で堤防の決壊や氾濫が起こるのか、どれくらいの水量になつたらどうということが起こるのかという

ことを自治体等から自衛隊に

情報提供していただき、それを土台とした災害派遣計画を作っていくことが重要だと思います。

今回三万数千人の自衛隊員が災害派遣活動を行いました。部隊は「行け」といったら、すぐに行けるわけではなく、被災地域へ進出したら、そこで宿営をして、そこを拠点として活動しなければなりません。最初の人命救助の段階は拠点が不十分でも活動できますが、災害派遣の重点が生活支援、復旧支援という段階に変わっていくと、長期作戦になるので、部隊がどこに宿営をして、補給のための拠点をどこに置き、物資をどのように運んでいくかというような計画もしっかり作っておかなければなりません。

林――統合幕僚長は防衛大学の土木工学科のご出身だと伺っています

が、自衛隊において土木がどのように役立っているかを教えてください。

山崎——私は防衛大学の土木工学を専攻したOB、教官等が会員となっている「防衛大学校土木会」の会長を行っております。この会員は約二千名で、自衛隊のみでなく、国会議員や大学教授等国内外で活躍しております。土木工学はその名前の通り「土を築き、木を構え、人が住みやすくするための学問」、すなわち、自然を切り開き、道路、橋、鉄道、上下水道、ダム、港湾等の生活に欠かせないインフラを築き、社会の発展に寄与する学問だと思います。この土木で学んだ技術が自衛隊の作戦基盤を作る施設科部隊の活動に大きく役立っています。

林——統合幕僚長は施設科職種だと伺いましたが、施設科というのはどのようなことを行っているのですか。

山崎——施設科部隊は旧軍では工兵といわれる職種で、陣地構築、障害構成・障害処理・渡河・交通・建築や駐屯地・基地等の維持・整備等を通じて作戦基盤を作り、作戦部隊の任務達成に寄与する職種です。

施設科部隊は、自衛隊発足当初から、部外工事という枠組みで、学校や

運動公園の造成、道路の開設等により地域社会の発展に協力してきました。

また、災害派遣では倒壊家屋・風倒木の除去、道路の啓開、橋梁の架設等により被災地域の復旧活動に携わっています。

さらに、国際平和協力活動では、カンボジア、東ティモール、ハイチ、南スーダン等での道路開設、インフラ整備により国際的に高い評価を得ています。最近では国連PKO工兵部隊マニュアルの策定において、工兵分科会の議長国として積極的な役割を果たし、世界の工兵の基準となるマニュアルを、自衛隊の施設科部隊が作成しました。このように、自衛隊においても「土木」の分野は、わが国および世界の平和と繁栄のために大きく貢献しています。

本日は時間がないので、施設科職種の活動について十分説明することができませんが、施設科隊員の教育等を行っている施設学校をぜひ訪問して、施設科職種の活動や、施設科が保有している特有の施設器材等をご覧になってもらいたいと思います。

林——それでは、施設学校を訪問させていただきますか。本日はお



写真1 山崎幸二統合幕僚長と林康雄会長

時間をとっていただきありがとうございます。ありがとうございました。

山崎——こちらこそ、このような機会をいただきありがとうございます。

陸上自衛隊施設学校を訪問

茨城県ひたちなか市にある施設学校は施設科職種の隊員の教育等を行う組織です。林会長は施設学校を訪問し、国際貢献活動や災害派遣等で活躍する施設科職種の概要や、災害派遣等でも活用できる07式機動支援橋、92式浮橋等の施設科が装備している器材の展示説明を、鶴居施設学校長をはじめ、施設学校教官より受けました(写真2)。これらは一般の道路を走行で

きるように限られた幅、高さ、長さの車両に必要な機能を集約した独特の器材であり、日頃見かけることが少ないと思います。詳細についてはWebページで施設学校訪問記として紹介いたしますので、ぜひご覧いただきたいと思っています。

(<http://committees.jscce.or.jp/jscceoffice/node/159>)

今回は、統合幕僚長を訪問するとともに、陸上自衛隊の施設学校を訪問し、災害派遣や国際貢献で活躍する施設科部隊について紹介しました。これらを通じて、自衛隊における土木技術の活用状況、加えて、自衛隊にも土木工学の人材育成を行い、活用する組織があることを知ることができました。



写真2 鶴居施設学校長や施設学校教官より施設器材の説明を受ける林会長(陸上自衛隊施設学校にて)